

眼科用 眼軸長測定装置

仕様書

目次

- (1) 調達物品導入の目的
- (2) 調達品の構成
- (3) 性能・特性など
- (4) その他（保守・点検・据え付けなど）

調達物品名 眼科用眼軸長測定装置

1. 調達物品の目的

高齢化社会を背景に、眼科における白内障手術件数は年々増加している。白内障手術に際しては、術中に挿入する人口水晶体レンズ（以下、IOL）度数を求めため、術前に各種屈折検査（主に眼軸長測定、角膜曲率半径、前房深度測定）を行い、患者の屈折に適切な度数の IOL 度数を選択する。この選択が適切でない場合、患者には術後屈折誤差が生じ、術後の患者より視機能での満足度を得ることは困難である。患者からの白内障手術に対する質のニーズが高まる中、検査に伴う患者負担の軽減、患者の求める **Quality of Vision** を得るための正確な眼内レンズの予測が必要とされる。特に昨今増加している多焦点眼内レンズの度数予測の際には、レンズの構造上患者の視軸上で眼軸測定を行うことが不可欠であり、更には測定時の眼球状態を可視化することにより固視不良などによる誤測定を回避し、また豊富な度数計算式を用いることにより、様々な症例に対応し眼内レンズ度数計算の精度を向上させ、白内障手術の術後成績の向上を図る。

白内障術後成績の屈折誤差の要因は、眼軸長測定結果に起因することが多く、安定した精度の高い眼軸長測定結果を得ることは、手術成績の向上並びに患者満足へとつながる。眼内レンズ度数予測に際しては必須項目でありながら最大屈折誤差要因の 1 つである眼軸長測定を正確且つ簡便に行えることが望ましい。

2.調達物品の構成

眼軸長測定装置 一式

(1) 構成内容

1-1	眼軸長測定装置	一式
1-2	電動光学台	一式
1-3	プリンター	一式

3.性能・特性など

(1) 装置の概要及び条件

- ①薬事法に基づく医療承認を得ている装置であること。
- ②納入後、安定した稼働が出来ること。

(2) 性能・機能に関する要件

①眼軸長測定装置

- 1-1 光源に **SWEPT Source OCT** を用いている。
- 1-2 非接触眼軸長測定が可能である。
- 1-3 1-2 のため、個人誤差を排除した信頼性の高い検査が可能である。
- 1-4 1-2 のため、患者への感染症及び角膜障害の要因を排除できる。
- 1-5 1-2 のため、点眼麻酔を利用することなく検査可能である。
- 1-6 有水晶体眼以外の眼軸長測定が可能である。
- 1-7 本装置内で、眼軸長測定、角膜曲率半径及び前房深度、角膜径測定、瞳孔径、水晶体厚、中心角膜厚が計測可能である。
- 1-8 術前検査時の全眼球情報を **OCT** 断層にて可視化することができ、測定時の状況や眼球の形態異常の確認を可能にすることにより誤測定や一部の術後屈折誤差を回避可能であること。
- 1-9 検査測定値は多数の臨床データから **IOL** マスター専用最適化されたレンズデータベース **ULIB** を使用し、正確なレンズ度数計算が可能であること。
- 1-10 屈折矯正術後の眼内レンズ度数計算式として **Haigis-L** 式が搭載されている。
- 1-11 トーリック眼内レンズの度数計算式の **Haigis-T** 式が搭載されている。
- 1-12 日本語表示が可能である。
- 1-13 **Windows7** 制御である。
- 1-14 **LAN** ポートにて外部コンピュータに接続可能である。
- 1-15 自動的に左右眼を認識可能である。
- 1-16 本体上のジョイスティックとタッチパネルモニターで操作可能である。

②電動光学台

- 2-1 患者の体軀に合わせたテーブルの上下動が電動で調節可能である。
- 2-2 患者が楽な姿勢を保てるよう、ハンドグリップ式のデザインを採用している。

③プリンタ

- 3-1 検査結果が印刷可能である。
- 3-2 プリンタは眼軸長測定装置本体と LAN ケーブルにて接続が可能である。

4.その他

(1) 保証期間

通常の使用により故障した場合に限り、納入検査終了後1年間は保証期間として給者は無償修理に応じる。

(2) 据え付け

- 2-1 納入業者は、病院の医療業務を考慮のうえ十分注意して行う。
- 2-2 納入に当たっては供給者が責任をもって行い、事故に関して発注者は一切責任を負わない
- 2-3 供給者は物品設置の際に点検・調整及び試運転を行い、使用者に十分説明の後、引き渡すものとする。